



今月の表紙

今月の表紙は、3月23日に行われた明和小学校卒業式の「別れの言葉」の様子です。

別れの言葉では、卒業生が6年間の学校生活を振り返りながら思いを述べ、そして在校生にエールを送りました。最後に卒業生が「旅立ちの日に…」を歌いあげ、会場は感動につつまれました。

13名の卒業生は、希望に満ちた中学校生活に向け、学び舎で過ごしたかけがえのない思い出を胸に、今旅立ちます。

(関連ページ12ページ)

<特集>

平成29年度只見町予算 2~3

空き家バンク制度開始 4~5

新生「奥会津学習センター」 6~7

第45回雪まつり

フォトコンテスト&ミニ雪像コンテスト 8~9

<<News&flash>>

ユネスコエコパーク推進協議会 ほか ... 10~11

<<町の話題>>

卒業式・満了式 ほか 12~15

これが只見町の予算です

◆平成29年度只見町予算

平成29年度は、第七次只見町振興計画に示した町づくりの理念、基本的施策に基づき、地域の社会経済的な発展を目指し、各種事業へ取り組みを進めます。

一般会計の予算規模は51億4,200万円となり、前年度対比8億1,800万円(13.7%)の減となっています。また、十一の特別会計の合計額は28億2,160万円となっており、一般会計と合わせた平成29年度予算総額は79億6,360万円です。

◆一般会計 歳入

歳入は、「依存財源」(国や県から入るお金)が66.6%を占め、その中でも地方交付税の割合が最も高く、歳入全体の33.9%を占めています。

また、「自主財源」(町が独自に確保できるお金)では、繰入金(歳入全体の13.9%)で、前年度に比べて5億5,114万円の減額となっています。町税は歳入全体の16.9%で、前年度に比べて5,144万円の減額となっています。

◆一般会計 歳出

歳出は、総務費の占める割合が16.5%と最も高くなっています。主な事業は、地方創生推進交付金事業及び地域づくり交付金事業、只見振興センター外構工事などです。

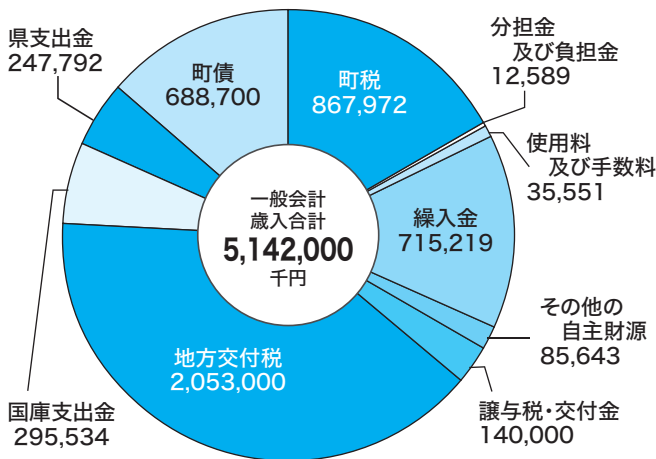
次に、民生費の占める割合は14.3%となっています。主に後期高齢者医療、介護保険、児童福祉などの安定した社会生活を保障するための経費です。

また、土木費の占める割合が13.9%となっています。これは、除雪機械の整備、橋りょう修繕、町道改良工事の実施によるもので、昨年比40.5%の増となっています。

続いて、教育費、公債費、農林水産業費、商工費、衛生費、消防費の順になっています。

教育費では、公営塾の運営、中学校プール改修、放課後児童対策などを実施し、農林水産業費では、地域活動の支援、稲作担い手農家への補助、遊休農地等の解消、新規就農対策に取り組みます。商工費では、プレミアム商品券発行、宿泊飲食事業者の支援、雇用対策を実施します。

4,200万円



■町税の内訳

町民税	1億5,375万2千円
固定資産税	6億7,583万円
軽自動車税	1,269万2千円
町たばこ税	2,231万3千円
入湯税	338万5千円

町民一人あたりにすると(3月1日現在人口)…………… 4,496人

■一般会計支出額(使われるお金の額)…………… 1,143,683円

■町税負担額(納めていただくお金の額)…………… 193,054円

■歳入

(単位:千円)

項目	29年度	構成比	28年度	増減率
町税	867,972	16.9%	873,115	-0.6%
地方譲与税	55,000	1.1%	55,000	0.0%
利子割交付金	200	0.0%	400	-50.0%
配当割交付金	400	0.0%	500	-20.0%
株式等譲渡所得割交付金	200	0.0%	200	0.0%
地方消費税交付金	73,000	1.4%	76,000	-3.9%
自動車取得税交付金	10,000	0.2%	9,000	11.1%
地方特例交付金	500	0.0%	400	25.0%
地方交付税	2,053,000	39.9%	1,975,300	3.9%
交通安全対策特別交付金	700	0.0%	800	-12.5%
分担金及び負担金	12,589	0.3%	17,790	-29.2%
使用料及び手数料	35,551	0.7%	34,803	2.1%
国庫支出金	295,534	5.7%	208,412	41.8%
県支出金	247,792	4.8%	539,081	-54.0%
財産収入	18,770	0.4%	21,873	-14.2%
寄付金	8,001	0.2%	8,001	0.0%
繰入金	715,219	13.9%	1,220,330	-41.4%
繰越金	1	0.0%	1	0.0%
諸収入	58,871	1.1%	54,894	7.2%
町債	688,700	13.4%	864,100	-20.3%
歳入合計	5,142,000	100.0%	5,960,000	-13.7%

■歳出

(単位:千円)

項目	29年度	構成比	28年度	増減率
議会費	75,413	1.5%	74,572	1.1%
総務費	848,814	16.5%	1,395,958	-39.2%
民生費	733,564	14.3%	788,069	-6.9%
衛生費	368,091	7.2%	423,668	-13.1%
労働費	2,513	0.0%	2,513	0.0%
農林水産業費	500,164	9.7%	554,141	-9.7%
商工費	412,585	8.0%	380,896	8.3%
土木費	713,418	13.9%	507,604	40.5%
消防費	277,981	5.4%	226,262	22.9%
教育費	631,995	12.3%	834,636	-24.3%
災害復旧費	15,710	0.3%	277,575	-94.3%
公債費	531,391	10.3%	465,641	14.1%
予備費	30,361	0.6%	28,465	6.7%
歳出合計	5,142,000	100.0%	5,960,000	-13.7%

平成29年度の主な事業

■自然と共生するまちづくり

- 自然保護意識の醸成
 - 1,713万円 ユネスコエコパーク推進事業
- 雪と共存するまちづくり
 - 7,300万円 除雪機械更新事業
 - 1,630万円 高齢者等除雪支援事業
 - 500万円 克雪対策事業補助金
- 道路網の整備と定住環境の整備
 - 12,862万円 道路新設改良事業
 - 4,780万円 町営住宅長寿命化事業
 - 1,315万円 定住促進住宅建設事業
- 水環境の保全と上下水道の整備
 - 8,736万円 只見統合簡易水道整備事業

■文化に根づく人づくりと学び続けるまちづくり

- 将来の只見を担う子どもたちの教育の充実
 - 2,082万円 奥会津・只見教育振興協力隊活用事業
 - 593万円 公営塾推進事業
 - 350万円 未来の自分設計奨励金交付事業
- 家庭教育力・地域教育力の向上
 - 448万円 放課後子ども教室事業
 - 1,210万円 子育てひろば事業
- 魅力ある生涯学習の推進
 - 207万円 地域人材育成事業
 - 308万円 芸術文化事業
- 地域文化の振興(地域で育まれた人の技・物・食の伝承)
 - 1,604万円 八十里古道調査事業
 - 1,387万円 民具収蔵庫整備事業

■住民が主役のまちづくり

- 集落・振興センターでの住民交流を主体とした地域づくり
 - 920万円 集落運営支援交付金
 - 900万円 自然首都只見地域づくり交付金
 - 4,759万円 只見振興センター外構整備事業
- 総合的な土地利用・公共交通体系の確立
 - 1,458万円 JR只見線全線再開通事業
 - 2,034万円 新多目的交通システム運営補助事業
 - 885万円 観光交通事業

■住みやすいまちづくり

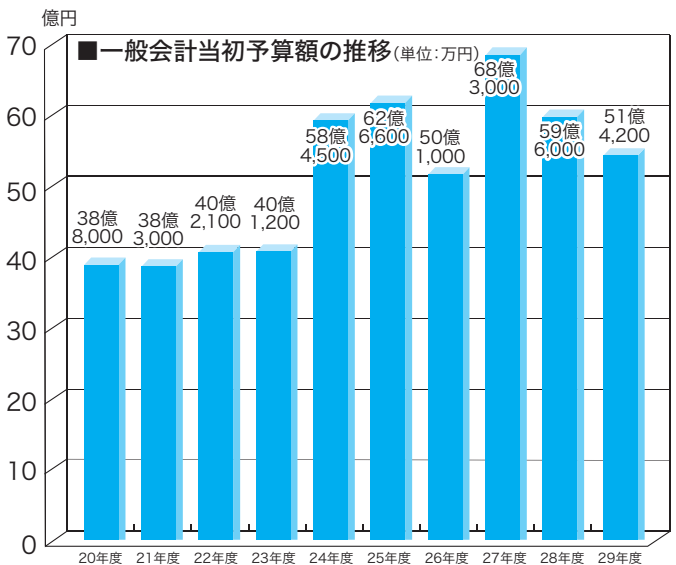
- 安心して子どもを産み育てられるまちづくり
 - 417万円 保育料軽減事業
 - 1,557万円 18歳以下医療費無料化事業
 - 2,000万円 健やか発育・発達支援事業
 - 380万円 子宝祝い金事業
 - 600万円 学校給食支援事業
- 安心して暮らせるまちづくり
 - 4,061万円 朝日診療所医療機器整備事業
 - 1,089万円 消防団機材等整備事業

4月から年長児童の保育料が無料になります。

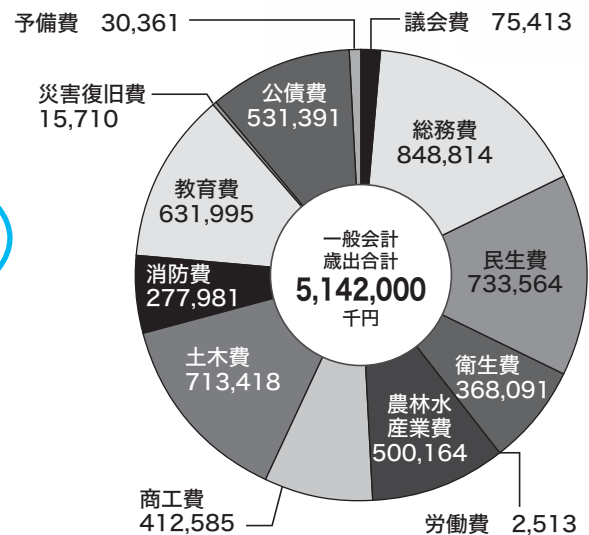
■働きがいのあるまちづくり

- 受け継ぎ託す、プライド農業の実践
 - 865万円 担い手育成事業
 - 1,200万円 稲作担い手農家生産基盤整備支援事業
- 豊かな森林を活かした林業の振興
 - 200万円 地元産材活用支援事業
- 活力と賑わいそして持続ある商工業の確立
 - 1,740万円 プレミアム商品券発行事業
 - 250万円 U・Iターン等促進助成事業
 - 250万円 雇用促進奨励金事業
- 地域経済の発展を担う魅力ある観光の推進
 - 1,296万円 自然首都只見アウトドア拠点整備事業
 - 2,500万円 宿泊・飲食事業持続化創業支援事業

お金はどこから来て、どこへ行くの？



一般会計 予算総額 51億



■特別会計予算

(単位: 千円)

会計区分	29年度	28年度	増減率
国民健康保険事業特別会計	585,000	571,000	2.5%
国民健康保険施設特別会計	462,000	448,000	3.1%
後期高齢者医療特別会計	135,000	133,000	1.5%
介護保険事業特別会計	720,000	762,000	-5.5%
介護老人保健施設特別会計	262,000	261,000	0.4%
地域包括支援センター特別会計	10,200	10,200	0.0%
簡易水道特別会計	222,000	300,000	-26.0%
観光施設事業特別会計	44,000	40,000	10.0%
交流施設特別会計	63,000	58,000	8.6%
集落排水事業特別会計	304,000	298,000	2.0%
朝日財産区特別会計	14,400	15,000	-4.0%
訪問看護ステーション特別会計	※1 0	16,000	-100.0%
合計	2,821,600	2,912,200	-3.1%

※1 訪問看護ステーション特別会計は、平成29年3月31日に廃止しました。

増える空き家…

減る人口…

今こそ対策を！

空き家の活用と移住定住の促進

只見町「空き家バンク制度」開始

近年、全国の農村部において、少子高齢化及び後継者不足などによる空き家や耕作放棄地の増加に加え、集落のコミュニティ機能維持が困難になるなど、いわゆる限界集落化が深刻となっており、只見町も同様の問題を抱えております。

それらの問題の解決策として町では、空き家の有効利用をとおして、農山村機能の維持、移住定住を促進しようとして明和振興センターを中心に「空き家バンク」を制度化しました。この度、3月16日に只見町と(社)福島県宅地建物取引業協会との間で協定が結ばれ、空き家バンクの利用が開始となりました。利用開始時の物件登録数は4件ですが、今後各振興センターからの情報収集により登録数が増える見込みです。今回は、この「空き家バンク制度」についてご紹介します。

―只見町空き家

バンク制度とは―

町内に所在する空き家情報を発信することで、空き家の流通促進、町内在住者の居住支援の充実、町外からの移住定住を促進し、地域の活性化を図ることを目的としています。

具体的には、町内の空き家のうち、賃貸又は売買を希望する所有者から物件情報を収集し、空き家バンクに登録するとともに、町のホームページ

―に掲載することにより、空き家情報を利用希望者に提供します。

空き家の売買及び賃貸などの契約交渉は、当事者同士で直接行うか、若しくは、町と協定を結んだ(社)福島県宅地建物取引業協会を媒介して行います。

―空き家バンクへの

物件登録方法―

町内で現に空き家となっている(今後空き家となる予定

も含む)建物を所有し、その物件を売買又は賃貸を希望される方は、空き家バンクへ登録することができます。物件登録の際に、契約交渉を当事者間で直接行うか、町が協定を結んだ福島県宅地建物取引業協会を媒介業者として依頼するか選択をします(町は媒介をいたしません)。なお、福島県宅建協会を選択された場合は、媒介に係る費用負担が発生しますが、安心して手続きを依頼することが



▲3月16日、空き家バンク媒介に関する協定を結んだ只見町と福島県宅地建物取引業協会



▲町HPで掲載している空き家バンク

～ 空き家バンクの流れ ～

《貸したい・売りたい方の流れ》

①空き家バンク登録の申込

- ・空き家バンク登録には申込が必要です。申込様式を町HP又は物件所在の属する各振興センターから受取り、同センターへ提出します。



②空き家の現地調査及び確認作業

- ・「空き家バンク登録台帳」へ登録する為に、担当者で現地調査・確認作業を行います。
- ・契約交渉の方法を選択します。
(直接利用者と交渉を行う方法又は、県宅建協会へ依頼する方法から選択)
- ・台帳登録後に町HPで募集開始となります。



③交渉・契約

- ・空き家を利用したい方が見つかった場合、条件の交渉・契約の手続きを行います。
- ・契約後は、同センターへ報告し完了となります。

《借りたい・買いたい方の流れ》

①利用希望の登録

- ・町HP掲載の空き家バンクを閲覧し、気になる物件の見学や資料請求などを行いたい場合は、利用希望者登録に関する申込書類を物件所在の属する各振興センターへ提出します。



②物件見学

- ・実際に空き家の見学を行います。



③交渉・契約

- ・希望の物件があった場合、利用申込書と関係書類を同センターへ提出します。書類提出後、所有者が選択した、直接型又は県宅建協会との間接型により交渉・契約を行います。
- ・契約後は、同センターへ報告し完了となります。

— 明和振興センター「空き家活用促進」担当者よりメッセージ —

空き家バンク制度により、他所からの移住・定住促進のみならず、町内在住者の居住支援や、空き家の増加抑制が期待できます。今はまだ登録物件は4件のみですがこれを見て登録を検討していただければ幸いです。空き家を登録したい、バンクを利用したいなど、ぜひ明和振興センターまでご相談ください。



地域おこし協力隊
大竹 康平

— 空き家バンクの利用方法 —

空き家情報は町のホームページに掲載していますので、インターネットを利用して物件を閲覧することができます。インターネット環境がない方は、「利用希望者登録」をすることで、郵送などによる情報の提供が可能となり、さらに物件見学などの便宜が図られます。

希望する物件が見つかった場合は、交渉の申込を行い、只見町の自然環境、生活文化などを尊重し、地域との協力関係に努めるなどを記載した「誓約書」を提出することで、交渉・契約などを行うことができます。(町は情報の紹介や必要な連絡調整を行い、媒介行為は行いません。)なお、詳細については左記までお問合せ下さい。

— お問合せ先 —

明和振興センター
☎0241(86)2111

山村教育留学生の受け入れを拡充

新生「奥会津学習センター」完成！

町では、只見高校へ通う山村教育留学生の受け入れを拡充するために、昨年6月より留学生の寮「奥会津学習センター」の増設工事を進めました。既存学習センターの向かい側に増設された学習センターは、今年3月23日に完成となり入寮を開始し、4月から47名（男子29名、女子18名）が居住します。

今月号では、留学生が新生活を送る新生「奥会津学習センター」を紹介します。



▲3月23日に竣工した奥会津学習センター

―奥会津学習センター―

設置の背景

只見町にある県立只見高校の生徒数は、少子化や人口減少の影響を受け、地元の子ども達だけでは定員を満たすことができない状況となっています（広報たみ3月号No.562参照）。

そこで只見町では、安定した生徒の確保を目指し、只見高校の永続的存続のため、平成14年度から「山村教育留学制度」を開始し、町外から只見高校に通う生徒の受け入れをスタートしました。

平成17年度には、旧北里大学の教育実習寮を改築して奥会津学習センターを設置し、留学生が安心して生活を送れる生活拠

点の整備を行い、留学生の募集を強化しました。

増設前の奥会津学習センターの定員数は40名で、1学年あたり約13名が最大の受入れ人数でした。しかし、近年においては、

只見高校入学生の約4割が留学生となっており、平成25年度以降は留学生が14〜16名と急増しました。それにより、学習センターの受入定員を超える留学生に ついては、下宿での対応としていたため、留学生が学習センターと下宿と分散している状況でした。

そこで今回、奥会津学習センターの増設工事を行い受入数を40名から60名に増やし、1学年あたり20名の受入を可能としました。また、増設により只見高

校存続に最低限必要な新入生徒数35名（定員70名の半数）のうち、留学生だけで半数以上確保できる体制が整ったため、あわせて留学生募集の強化が行われました。

―奥会津学習センター―

機能と設備

奥会津学習センターの増設工事は、既存学習センターと向かい合う形に造られ、既存学習センターが男子寮（部屋数16室／32名収容）、新設した学習センターが女子寮（14室／28名収容）となっており、寮室は1部屋2名での入室となります。

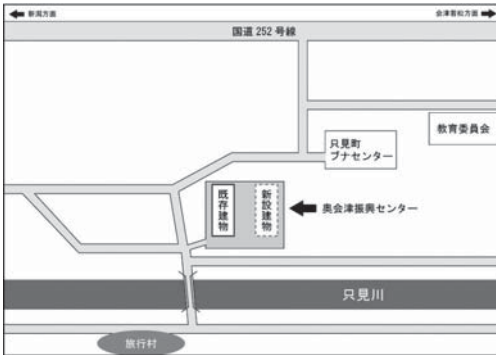
寮には、談話室や学習室などが設けられており、学習だけで



▲スタディルーム(学習室)



▲洗濯・乾燥室



▲地図



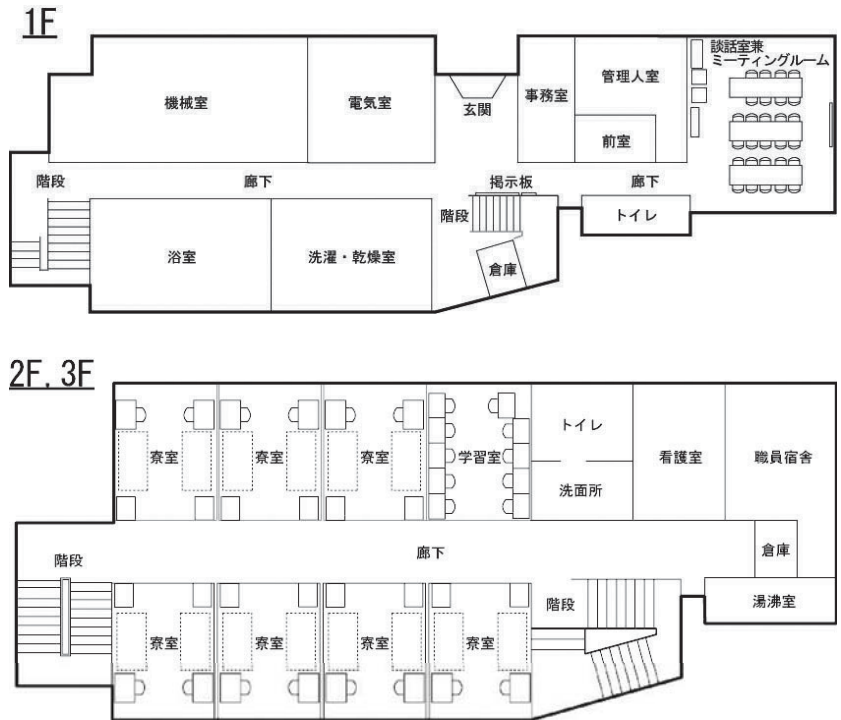
▲2人1部屋で生活する寮室



《Voice》
地域おこし協力隊
ハウスマスター
松本 貴芳さん

皆さんはじめまして。まずは僕なりのハウスマスターの役割についてお伝えします。ハウスマスターは”聴き役”だと思っています。生徒の悩みを聴き、想いを聴き、それぞれの生徒が幸せに只見で暮らしていけるようにサポートする。そんな役割です。一人でも多くの生徒に「只見に来てよかった。」と感じて貰えるように頑張っていきます。

《建物図面》



なく、仲間とのコミュニケーションが図られるような機能が備わっています。

— 管理人やハウス
マスターがサポート —

寮の管理はNPO法人ゆいネット只見(目黒淳一理事長)が町から指定管理を受けて行っています。また、留学生が安心して生活を送れるよう、寮にはハウスマスターや管理人が常駐し、教員も同寮に生活しているため、悩み事などの相談に応じることが可能です。

— 進化途中の学習センター —

奥会津学習センターは、ただ生活を送るだけの場所ではなく、只見高校や公営塾「心志塾」と連携を図り、留学生が将来社会で活躍できるように、また、生涯を通して只見町の応援団となつてくれる人材を育成していきます。只見町はこれからも、只見高校を全力でバックアップしていきます。

— お問合せ先 —

只見町教育委員会
0244-1(82)5320

第45回 只見ふるさと雪まつり

フォトコンテスト入賞作品決定!

《入選》

- 高橋 徳行さん(会津若松市)
- 笠原 寿一さん(福島市)
- 福原 勝宏さん(千葉県柏市)
- 武田 浩さん(宮城県富谷市)
- 馬場 トシ子さん(只見町)

応募総数73点

沢山のご応募ありがとうございました。



只見町長賞

「大雪像に咲く祈願花火」

井上 真也さん(埼玉県北本市)



ティーエヌアイ工業(株)社長賞
「一刀両断」
大竹 俊夫さん(新潟県見附市)



審査員特別賞 「雪中熊本城」
蛭田 真一さん(福島県いわき市)



優秀賞 「厄払いの福餅まき」
小澤 貴喜さん(福島県郡山市)



優秀賞 「厄年男衆」
寺澤 達夫さん(新潟県見附市)

優秀賞



「ひごまる」 只見高校A班

最優秀賞



「羽ばたけ只見町」 只見町商工会

第45回 只見ふるさとの雪まつり

ミニ雪像コンテスト 審査結果発表!

応募総数41点の
中からえらばれたよ!



入賞



「只見線」 朝日小学校第4班

入賞



「にわとり」 塩沢観光協会

入賞



「WELCOME TADAMI」 東邦銀行と只見沖組

入賞



「アンパンマン」
吉津 明さん(長浜)

「第5回只見ユネスコエコパーク推進協議会」開催

ユネスコエコパークの理念である人と自然の共生を目的としたまちづくりを進める為、「第5回只見ユネスコエコパーク推進協議会」の会議が2月28日、明和振興センターで開かれ、町内外から約20名の関係者が出席しました。

会議の冒頭、会長・副会長の代表者変更が行われ、会長に菅家三雄町長、副会長に只見地区区長連絡会副会長の五十嵐修さんが就任されました。菅家町長は「これまでの様々な取組みにより総務省の『ふるさとづくり大賞』に選ばれた。前町長からの意思を引継



▲活動報告などが行われた推進協議会

ぎ取り組みますので、皆様のご協力をお願いしたい」と挨拶しました。

報告事項では、平成28年度の各種活動報告と昨年6月24日から施行された「只見町野生動植物保護条例」についての説明がありました。この条例制定により不当な盗掘等への対応が可能となったことに対して、会津森林管理署の川原南会津支署長は「国としてはこのような条例ができたことを広く周知できる。また、その波及効果は大きい」と述べられました。

また、次年度に予定している「浅草岳沼ノ平学術調査」については、沼ノ平の湖沼群や成熟したブナ林などの豊かな自然環境と、地滑り地帯という不安定な環境という両面について総合的な学術調査を行い、今後の沼ノ平の保護・保全と持続可能な利用について検討していくと説明がありました。



▲次年度から調査予定の浅草岳沼ノ平地内

タレント「清水国明」さんが講演

2週連続開催の「只見町地方創生講演会」第1弾が3月19日、季の郷湯ら里で行われ、タレントの清水国明さんが「生きるチカラ、自然のチカラ」と題し、参加者約90名の前で講演されました。

講演会では、清水さんが校長を務める山梨県のNPO法人河口湖自然楽校における、大自然の中でのアウトドアを通して「自然から学び、自ら気づく」独自のプログラムにより、多くの企業の社員研修を受入れていることや、都心で手掛ける砂場づくり事業などをお話されました。また、ダムの砂を再利用したサンドバレーコートについて「只見町の着眼点が素晴らしい」と述べられました。



▲自然の魅力や活用方法などについてユーモアを交えながら講演した清水さん

「株いろどり」横石知二社長が講演

3月25日、季の郷湯ら里で「只見町地方創生講演会」第2弾が開かれ、約90名が参加しました。

講演会は、「一枚の葉っぱから生まれた幸せく居場所と出番づくり」をテーマに、「株いろどり代表取締役社長の横石知二さん（徳島県）が、「つまもの」を、葉っぱビジネスとして成功させるまでの道のりなどをお話されました。

講演会の中では、「町民の舞台づくり」の必要性を話され、情報と仕組みを使って地域の仲間とともに稼ぐことが、地域づくり、まちづくりに繋がると述べられました。



▲人・地域・商品が輝く舞台づくりが大事と話す横石社長

只見町の小学校の未来を考える
「只見町立小学校の在り方検討懇談会」を設置

少子化時代の小学校を考える「只見町立小学校の在り方検討懇談会」が3月1日、朝日振興センターで開かれ、各小中学校長やPTA、保育所保護者会、区長連絡会などから14名の委員が委嘱されました。只見町人口ビジョンなどによると、小学校児童数は平成27年から10年後には、193名から88名に減少すると予想され、平成32年には三小学校が全て複式学級になる見込みです。そこで教育委員会は、地域全体でこの問題を考えるために懇談会を設置しました。

懇談会では、これからの小学校の在り方について意見交換がされ、その成果は今後の小学校運営に活かされていきます。



▲委員に朝日地区区長連絡会長の菅家達朗さん、副委員長に明和地区区長連絡協議会長の梁取哲朗さんが就任した懇談会

只見町のアウトドアを考える
アウトドア基本構想ワークショップ

2月28日、季の郷湯ら里において「自然首都・只見アウトドア基本構想ワークショップ」が行われ、新潟県三条市のオートキャンプパイオニアメーカー(株)スノーピークの担当者や町内アウトドア関係者など13名が参加しました。このワークショップは、国道289号八十里越全線通を見据え、アウトドアを通して観光客などにユネスコエコパークを体感してもらう方法を検討するため、観光商工課が主催しました。

ワークショップでは、青少年旅行村・只見湖・田子倉湖の活用について参加者と意見交換が行われ、各団体から期待する意見が聞かれました。



▲会社概要やオートキャンプについて説明するスノーピークの上山さん

東武鉄道の新型特急
「リバティ会津」初披露

4月21日から運行が始まる東京・浅草駅と南会津町・会津田島駅を乗り換えなしで結ぶ東武鉄道の新型特急「リバティ会津」の内覧会が3月5日に行われ、町関係者などが参加しました。内覧会では、ベージュ色をベースに緑色のラインなどを配した近未来的な外観、天井に川の流れをイメージした曲線のデザインや東京の伝統色「江戸紫」を使用した座席などの内装が披露されました。

また同日、南会津町の御蔵入交流館で乗入れ50日前イベント「みんなのリバティ in 南会津」が開催され、桜枝歌吹舞伎や鉄道好き芸人「鈴川絢子」ステージなどが行われました。



▲浅草駅と会津田島駅間を1日4往復し、最短3時間9分で結ぶ「リバティ会津」

地域社会で認知症と向き合う
認知症予防講演会を開催

3月25日、季の郷湯ら里を会場に認知症予防講演会が行われ、139名が来場しました。

講演会は、会津医療センター臨床心理士の加藤善和先生が「地域社会で認知症と向き合うために」をテーマに講話されました。

講演会の中では、地域全体が認知症に対する偏見を捨て、その方々が地域の中で暮らしやすい環境を作ることの重要性や、早期に受診することでの病気（もの忘れ）を治すことや、長く健康を維持できるなどと講話されました。

講演会の最後には、参加者から認知症に対する質疑がされ、認知症への理解を深めました。



▲認知症と向き合う為には、受入れてくれる人や場所を作ることが重要と話す加藤先生

町内の保育所、小・中学校で「満了式・卒業式」

3月13日 「只見中学校卒業式」

只見中学校では、40名の卒業生が学び舎を巣立ちました。

今井仁校長が一人ひとりに声をかけながら卒業証書を手渡し、「卒業生の輝かしい未来を願います」と式辞を述べました。

また、卒業生を代表し、鈴木伶菜さんが答辞を述べ、感謝の気持ちを伝えると、会場は涙につつまれました。



▲卒業生一人ひとりに手渡された卒業証書

◀答辞を述べる鈴木伶菜さん



▲(写真/明和小)卒業生、在校生による別れの言葉

▶(写真/明和小)卒業証書を受け取る児童



3月23日 「3地区小学校卒業式」

3月23日、町内の各小学校において卒業式が行われました。

明和小学校では、卒業証書を受け取った13名の児童一人ひとりが、ステージ上で将来の夢や中学校での抱負などを披露し、式辞で渡部早苗校長は「明和っ子69名を引っ張ってくれた6年生の皆さん、これからも努力と感謝の気持ちを忘れず頑張ってください」とエールを送りました。

3月25日 「3地区保育所満了式」

3月25日、町内の各保育所で満了式が行われました。

朝日保育所では、5名の児童が満了を迎え、五十嵐朝日振興センター長から保育証書を受け取った児童は、その証書と共にお母さんのもとへ歩み寄り、ありがとうと感謝の言葉を添えて手渡しました。また、満了式後には鉄棒や跳び箱、縄跳びなどを行い、成長した自分の姿を披露し、会場は感動につつまれました。



▲記念品贈呈を受ける児童

◀感謝の気持ちと一緒に、お母さんへ保育証書を手渡す児童

地域住民の人権を守る

人権擁護委員に目黒香都子さん(坂田)

前任者の任期満了に伴い、平成29年4月1日付けで、目黒香都子さんが法務大臣から人権擁護委員に委嘱されました。人権擁護委員は、人権相談会の開催や、人権に関する啓発活動を行うなど、日々問題解決に取り組んでいます。今後は只見町担当として、鈴木厚さん(只見)、渡部等さん(小川)と一緒に活動されます。



目黒香都子さん



▲(3月5日開催/朝日のいいもの集めちゃった市)
自分で作成した割り箸鉄砲で景品を狙う子どもたち

地域性豊かな催し披露

各振興センターのお祭り開催

3月、各振興センターにおいて、作品・民芸品などの展示や手芸・ストラックアウトの体験など地域性豊かな催しを行う「各振興センターまつり」が開催されました。

どの会場も多くの人で賑わい、餅つき大会や各催しなどを楽しみました。中でも明和公民館まつりは今年開催30周年を迎え、節目の年を来場者とともに祝いました。



▲(3月11～12日開催/明和公民館まつり)
11日に行われた餅つきセレモニー



▲(3月12日開催/只見振興センターまつり)
落語を披露する鳥喰亭山翔さん

明和地区の伝統芸能を次の世代へ 明和小学校「伝統芸能発表会」

2月27日、今年で3回目となる「伝統芸能発表会」が明和小学校で開かれ、児童の雄姿を一目見ようと多くの保護者や地域の方々が来場しました。

この発表会はESD(将来にわたって持続可能な開発のための教育)の取り組みの一環で、現在の6年生が4年生の時に始まりました。明和地区に伝わる伝統芸能の継承として大きな意味を持ち、各地区の保存会の皆さんが協力して行われています。

発表会では、1・2年生が「大倉八木節」、3年生が「小林早乙女踊り」、4年生が「梁取神楽」を各々披露し、伝統の中に児童のアレンジが加わり、会場は笑いと感動につつまれていました。児童が発表をとおし、各地区の伝統芸能に触れることで、地域全体の伝統芸能の保存と継承に繋がっていくことを大いに期待させる発表会でした。



▲(写真/3年生による小林早乙女踊り)テレビ局も取材に訪れた伝統芸能発表会

第20回文化庁メディア芸術祭

昭和漫画館青虫館長の高野行央さんが功労賞を受賞!

3月16日、第20回文化庁メディア芸術祭の受賞者が発表され、只見町在住の昭和漫画館青虫館長の高野行央さんが「功労賞」を受賞しました。今回、「シン・ゴジラ」や「君の名は。」といった大賞作品などと一緒に受賞され、9月には受賞式と共に、受賞作品を鑑賞する総合フェスティバルも開催されます。

高野さんは、東京や京都のマンガ図書館でも目にできない昭和初期の貴重な貸本漫画などの漫画本を開架式(利用者が自由に閲覧できる方式)で並べ、自助努力により11年間運営されてきました。それらの活動がマンガ研究へ貢献しているとして評価され、今回選ばれました。高野さんは「この受賞を契機に、只見町が全国に知られ、町民の皆さんも更に元気になってもらいたい」と話され、受賞を喜びました。



▲功労賞を受賞された昭和漫画館青虫館長の高野行央さん

只見町ブナセンター

自然観察会「冬のブナ林で野鳥を探そう!」



▲積雪下の植物を観察する参加者

3月19日、ただみ観察の森・楢戸のブナ二次林で自然観察会を開催しました。この観察会は、冬の自然と只見町の最大の特徴である多雪を学ぶことが目的です。同時に、双眼鏡を使った野鳥観察やスノーシューによる雪上歩行を体験しました。楢戸の林道付近に到着すると、さっそく伊南川の上を巡回するオジロワシを発見しました。林内では、このブナ林の成り立ち、ブナの樹や冬芽の特徴、積雪深の測定や、積雪下の植物を掘り出しての観察などを行いました。未就学児から年配の方まで、町内外の20名が参加し、只見町の冬の自然を五感で体感できた観察会となりました。

只見町ブナセンター

写真教室「只見の雪を記録しよう～写真による自然観察会～」

3月4日、ただみ・ブナと川のミュージアムで写真家の猪又かじ子氏を招いて写真教室を開催しました。今回の写真教室には、町内外合わせて11名が参加し、ミュージアム周辺を猪又氏のレクチャーを受けながら、景色や、雪の作る造形、動物の足跡などを撮影しました。後半は、ミュージアム内のセミナー室に場所を変え、参加者の撮った写真について、良く撮影できた点や、さらに工夫できる点などを講評いただきました。皆さん熱心に聞き入っており、表情豊かな只見の雪景色を撮影することができた写真教室となりました。



▲只見の雪を撮影する参加者

涙が出るのは人生を丁寧に生きている証拠 「只見町文化講演会」開催

3月12日、(株)グローバルキャリア代表取締役の的場亮さんの講演会(教育委員会主催)が只見振興センターで開かれ、約50名が参加しました。講演会では、東京オリンピックを迎える2020年から教育が「答えを覚える時代」から「答えを探しに行く・違いを考える時代」に変わり、将来は人口知能などの進化に伴い、人間らしさやコミュニケーションがより重要になることを話され、素直に感謝することの大切さなどが動画と共に伝えられました。



▲「顔の表情が人生の履歴書」など多くの金言が伝えられ、感動で涙あふれる講演会となりました

雪国の先進地から奥会津地域の可能性を学ぶ 歳時記の郷・奥会津シンポジウム

雪国の魅力を活かした地域づくりについて考える「歳時記の郷・奥会津シンポジウム」が3月11日、季の郷湯ら里で開かれました。第1部では雪国観光圏代表理事の井口智裕さん(新潟県湯沢町)が、世界に向けた雪国文化の可能性を講演し、第2部では奥会津トータルアドバイザーの清水慎一さん(元JTB常務)と、湯ら里の目黒支配人をはじめ奥会津の宿泊施設の代表4名が、外国人観光客との向き合い方などについてパネル討論が行われました。



▲雪国文化の可能性を講演する雪国観光圏代表理事の井口さん

南会津小中学校教職員研究物 朝日小学校が「特別優秀賞」受賞

県市町村教育委員会連絡協議会南会津支会などが主催する「南会津郡小中学校教職員研究物」の審査会が1月26日に行われ、朝日小学校が学校の部「特別優秀賞」に選ばれました。

学力向上に向けた研究実践の成果として、学校の部21点、個人の部3点の応募があり、朝日小学校は「つながりの中で育む只見愛」をテーマに応募し、南会津町立館岩中と共に特別優秀賞に選ばれました。



▲特別優秀賞に選ばれた朝日小学校の橋本先生(右)と太田先生(中)、教育委員会の増田次長(左)

雪上で熱戦が繰り広げられる！ 只見スノースポーツフェスティバル開催

3月4～5日、ただみコミュニティクラブが主催する「只見スノースポーツフェスティバル2017」が季の郷湯ら里で開かれ、雪上バレーや雪上フットサルなどが行われました。大会には約300名が参加し、バレーボール元全日本代表の泉川正幸選手や井上謙選手、そして元なでしこジャパンの海堀あゆみ選手や小野寺志保選手が招待アスリートとして訪れ、大会は大いに盛り上がりました。



▲熱戦が繰り広げられた雪上バレー

3月から新しい看護師さんが着任しました!

3月1日から5月31日まで朝日診療所で勤務していただく会津中央病院看護師の二瓶香織さんです。郡山市出身の二瓶さんは、看護師だった親戚の影響や、大切な家族の健康を支えたい気持ちから看護師を目指しました。

只見町へ着任した当初は、雪の量が多く驚いたそうですが、現在は診療所で中央病院(総合病院)との違いを学びながら、患者さんとの関わりを大事にしています。「早く只見町の方言を覚えて馴染んでいきたい」と話す二瓶さんをどうぞ宜しくお願い致します。



学生時代はバスケットボール部に所属していた二瓶さん

広報ただみ診療所

朝日診療所
所長 若山 隆



「肺炎球菌ワクチンについて」

雪も少なくなり、4月がやってきました。朝日診療所も新体制となり、新しいスタッフを迎えております。来月号で新任医師の紹介などを行う予定ですのでよろしくお願いたします。

今月は65歳以上の方を対象とした肺炎球菌ワクチンの情報提供を行いたいと思います。肺炎は日本人の死因の第4位になっており、特に高齢者に多いです。肺炎の原因としては肺炎球菌が一番多いとされています。この肺炎球菌による重度の感染症を予防できる肺炎球菌ワクチンは2種類存在します。「ニューモバックス」と「プレベナー」です。

厚生労働省が平成26年度から定期接種として勧めているのが「ニューモバックス」と呼ばれるもので、TVやCMなどでよく報道されています。今年度に65歳・70歳・75歳…100歳と5の倍数の年齢になる方は、定期接種の対象者となり、安くワクチンを受けられます。しかし、過去に一度でも「ニューモバックス」を受けたことがある方は安くなりません。只見町では東日本大震災があった平

成23年・24年度に半額または無料で「ニューモバックス」が受けられたので、そのときに受けた方も多いと思います。

肺炎球菌ワクチンの有効性は5年間と言われていたことで、只見町でも「ニューモバックス」の接種後5年以上過ぎた方が多くなってきています。そんな場合にお勧めなのは「プレベナー」の方を接種することです。ニューモバックスとプレベナーは免疫反応の起こし方が異なるとされ、2種類とも接種することで、より肺炎を予防する効果がたかまるとされています。米国疾病予防管理センターでも「ニューモバックス」と「プレベナー」の2種類を、それぞれ1年以上の間隔をあけて受けることを勧めています。

「プレベナー」は定期接種になっていないので、診療所では約13,000円の自己負担がかかってしまいます。安くはありませんが、肺炎で苦しんだり入院したりすることが少なくなると思えば高いとも言えないのではないのでしょうか?おススメです!

地域おこし協力隊として 只見町教育振興協力隊

vol.29

松本 貴芳



「冬の業務について」

皆さんはじめまして、松本貴芳と申します。私は愛知県名古屋市出身で、去年の12月に只見にやってきました。只見に来る前はデンマークに住んでおり、おそらく日本人移住者史上、最も遠い場所からやってきたのではないのでしょうか(笑)。

そんな私の任務は、只見高校の公営塾講師や、山村教育留学生の寮「奥会津学習センター」のハウスマスターです。公営塾の仕事では主に英語を指導しています。指導しているといっても、時には私たちにとっても難しい問題があります。そんな時には、生徒と一

緒に考えながら、一緒に答えを導き出していきます。「最初はわからなくていい、少しずつ“わかる”を増やしていけばいい」そんな気持ちで生徒と接しています。

赴任したばかりで、まだまだ只見のこともわからないことばかりですが、少しずつ“わかる”が増えていけばいいなと思います。そして、ハウスマスターとしては山村教育留学生たちの親代わりとして、時には厳しく優しく接していけたらと思います。これからも末永くよろしくお願いたします!

町史

とっておきの話

273

只見町総合政策課

中野 陽介

只見ユネスコエコパークがめざすもの⑥

— 教育研修と人材育成 —

只見町の自然環境や野生動物を守りながら、それらの地域資源を絶やさず、賢く利活用できる人材を育成する取り組みをご紹介します。

只見町公認自然ガイドの育成

只見町では、「只見町公認自然ガイド」(以下「公認ガイド」という)の育成をしています。公認ガイドの役割は、只見町の自然環境と地域資源を掘り出した地域づくりを推進するため、町固有の自然や文化を町内外の方々にガイド活動を通して紹介することです。それと同時に、来町者へ只見町の自然環境や生活文化の保全の重要性を理解してもらい、協力してもらえらるるよう働きかけることも重要な役割です。このような活動は、自然環境や歴史文化を体験して学ぶとともに、それらの保全に責任をもつ観光形態、すなわち



▲只見町公認自然ガイドの研修(只見沢)

「エコツーリズム」の推進に寄与するものです。いわば、公認ガイドは、ユネスコエコパークが理念とし目的とする、地域の自然環境を守りつつ、持続可能な形で利活用することで地域の社会経済的発展を目指す、ことを体現する方たちなのです。公認ガイドは、町の実施する

研修を受けた後、認定の申請をして認定基準に合致した人が認定されます。現在、二〇名が認定されています。公認ガイドの方々は、認定後も町の研修に参加することでその技術や能力の向上を図っています。いま、公認ガイドが同伴するツアーが、恵みの森や癒しの森を中心に年間一〇〇〜一五〇回ほど実施されています。

かつて町の観光は、田子倉ダムを中心として大人数が訪れるマストツーリズム(大衆観光)がさかんでした。しかし、現在そうした観光形態は減少しつつあります。近年の観光客の旅行志向や町の受入体制からいって、これからは少人数を対象としたエコツーリズムやグリーンツーリズムを推進しながら、そこで活躍できる人材を育てていくことが、町の将来につながるのかもしれない。

ユネスコエコパークと 只見町の未来

ユネスコエコパークが、直接的に利益を生みだし、過疎高齢化を劇的に解決してくれるものではないでしょう。どちらかと言えば、これまで紹介してきたような地味で地道な事業を確実に積み重ねていくことで、じわりと効果が現れてくるものと言えます。

ユネスコエコパークは、只見町にとってほんとうに大切なものは何かということを示しています。それはユネスコエコパーク登録の理由ともなった豊かな自然環境と生物多様性、それらを掘りどころとして伝承されてきた生活文化です。そして、これらを基盤として、生きていくという指針を与えてくれます。とはいっても、大切なものを守ることは並大抵ではありません。しかし、将来の世代(子どもや孫たち)のことを思えば、今の世代(私たち)が私利私欲にとらわれることなく、いかにしたら次の世代まで健全に生きていくことができるかを考えていく行動していくべき時期にきています。



▲梁取の養蚕万歳
親から子、子から孫へ、大切なものが引き継がれ、各世代が幸せに生活できる地域であってほしい

ます。ほんとうに大切なものは何か、どうやって守り活かしていくのか、そういった選択や方法に迷った時、ユネスコエコパークは大きな力となってくれるはずですよ。
「豪雪に育まれた自然と生活文化を守り、活かす」という只見ユネスコエコパークの精神のもと、これからも取り組みが継続されていけば、町のすすむ方向は自然と見えてくると思っています。



町民文芸

只見短歌会

二月詠草

大塚栄一

指導

病院の検査いくつも受くる朝長靴重く履きて出でゆく

古川 英子

寒明けて季節移ろふ頃なるに日毎降る雪我を悩ます

馬場 八智

降る雪を吸ひ込みて咳き咳く音の吸はれゆくらし行く道静か

小倉キミ子

豆拾ふ子らもなくなり節分に老らを呼びて息子豆撒く

渡部ゆき子

ふる里を離れ住む友電話などで年ごと故郷の思ひ深むか

関谷登美子

唐突に孫を託され嬉しけれどどの子と添ひ寝せむと迷ひつ

目黒 富子

雪まつり吹雪の中で舞ひたれば扇子持つ手に力入りぬ

渡部ヨリ子

同居する友活けくれし百合の花冬の佛間に時ながく咲く

新国 洋子

(出詠順)

只見俳句会

三月例会

目黒十一

指導

法要の座敷に古き春火鉢
開幕は居合道見せ雪まつり

一穂

鴨一羽流れをくだる春の川
はだれ野や村の温泉にぎわえる

敦子

百段の磴露れり雪解風
玄関に乳の香流るる春日和

吉児

銀河消して峽を彩る冬火花
牡丹雪ささめき合つて道に消ゆ

さちを

ふるさとの春は名のみの吹雪かな
無人駅送る人なし名残り雪

信

厄払い下帯姿の男衆
大氷柱背伸びしている小学生

都

草を編む手の中光る弥生尽
鳥インフル見送りなしに鳥帰る

洋子

書き止めるなれど忘却おぼる月
朝霞林をぬけて春入り

味代子

それぞれの彩り秘めて冬木立
残雪を撥ねて椿のきらめけり

弘子

春泥を踏んで七戸へ布令にけり
聴講や声の遠のく春の昼

恒夫

掌に載るふくよかな陶雛
如月や軒垂る音光りつつ

礼

春満月われを小さくより小さく
こそばゆし春満月の内に居て

順子

峠越え見ゆる町並み雪間草
北風に向かう娘や入籍日

修一

今月のお知らせ

電話番号

総務課	総務係 財政係	☎82-5210
総合政策課	地域振興係 広報広聴係	☎82-5220
町民生活課	税務係	☎82-5110
	町民係	☎82-5100
保健福祉課	保健係	☎84-7005
	福祉係	☎84-7010
農林振興課	農政係 林政係	☎82-5230
観光商工課	観光係 商工係	☎82-5240
環境整備課	地域整備係	☎82-5270
	生活環境係	☎82-5280
会計室		☎82-5120
議会事務局		☎82-5300
農業委員会		☎82-5230
教育委員会		☎82-5320
学校給食センター		☎84-7180
只見保育所		☎82-2219
朝日保育所		☎84-2038
明和保育所		☎86-2249
朝日診療所		☎84-2221
(歯科)		☎84-2612
こぶし苑		☎84-2101
只見振興センター		☎82-2141
朝日振興センター		☎84-2111
明和振興センター		☎86-2111

試験

平成29年度東北地区国立大学
法人等職員採用試験について

東北地区国立大学法人等採用
試験を次のとおり行います。

●試験の日程

1. 受付期間

5月10日午前10時～

5月24日午後5時

※東北地区国立大学法人等職員
採用試験実施委員会HPの受
験申込画面からお申込み願
います。

2. 第1次試験日

試験の内容／教養試験

試験地／福島市

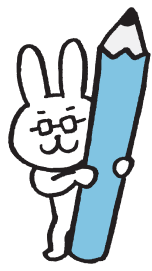
※他県外5市から選択

3. 第2次試験日

※東北地区国立大学法人等各機
関にて行います。

●受験資格

昭和62年4月2日以降に生ま



れた者

※受験資格の詳細は、HPを
参照願います。

●試験区分

1. 事務系区分／事務・図書

2. 技術系区分／電気・機械・

土木・建築・化学・物理・

電子・情報・資源工学・農学・

林学・生物・生命科学

●試験に関するお問合せ先

東北地区国立大学法人等

採用試験事務室

☎022(217)5676

午前9時～午後5時

土日祝除く

http://www.bureau.tohoku.
ac.jp/shiken/

お知らせ

福島県民広聴室より 県政相談のお知らせ

県では、県政に関する相談や
要望、または県民生活に関する
相談をお受けします。相談は無
料で秘密は厳守します。

●相談場所

福島県庁県政相談コーナー及
び県の各合同庁舎内県政相談コ
ーナー

●相談時間

月曜日～金曜日

9時～12時、13時～16時

(祝祭日、年末年始は休み)

●県庁県政相談コーナー

☎0120(899)721

☎024(521)7017

●会津地区の合同庁舎

「会津若松」

会津地方振興局県政相談

☎0120(899)724

「南会津」
南会津地方振興局県政相談
☎0120(899)725

●お問合せ先

福島県民広聴室

☎024(521)7013

福島県民広聴室より 交通事故相談のお知らせ

県では、交通事故による損害
賠償請求や示談の仕方などに
ついて相談をお受けします。相談
は無料で秘密は厳守します。

●相談場所

福島県庁 県政相談コーナー

〒960-8670

福島市杉妻町2-16

(本庁舎2階)

☎024(521)4281

相談時間／月～金曜日

9時～12時、13時～16時

(祝祭日、年末年始は休み)

税 今月の納期

4月25日までに
納めましょう

- 固定資産税(1期)
- 農集排使用料(4月分)

●巡回相談(要事前予約)

交通事故相談員が向いて相
談を受け付けます。

相談を希望される方は、次の
日程及び会場をご確認の上、
必ず事前に予約をとり、指定
された時間において下さい。

・予約は、原則として相談日の
前日正午までです。(予約がな
い場合は、相談会は実施しま
せん。)

●平成29年度巡回相談日程

福島県会津若松合同庁舎

4月11日、5月16日、6月13日、

7月11日、8月8日、9月12日、

10月12日、11月14日、12月5日、

1月16日、2月15日、3月13日

●予約受付先

福島県庁県政相談コーナー

☎024(521)4281

只見町副町長に 橋本晃一氏が就任

只見町議会3月会議において議会の同意がなされ、副町長に橋本晃一氏（44歳）が選任されました。

4月3日、役場町長室において、菅家町長から橋本氏に辞令書が手渡されました。



▽只見町副町長
橋本 晃一

《略歴》

須賀川市出身。清陵情報高校、福島大学行政社会学部卒。平成7年に県職員となり、保健福祉総務課主任主査などを歴任、平成28年度から財政課副課長兼主任主査、4月1日より只見町副町長に就任となりました。

《挨拶》

只見町の皆さま、はじめまして。多くの方々に温かく迎え入れていただき、只見町の一員になったことをとても嬉しく思っています。菅家町長の下、職員と共に一丸となって只見町発展のために取り組んでまいりますので、町民の皆さまのご指導とご協力をお願いいたします。

町職員の退職・新規採用

●退職職員（3月31日付）

町政にご尽力頂きました、次の方々が、平成28年度限りで退職されました。

- ▽山内 健士朗（朝日診療所 医師）
- ▽渡部 勇夫（総合政策課）
- ▽酒井 恵治（環境整備課）
- ▽馬場 さき子（会計室）
- ▽目黒 隆（観光商工課付）
- ▽長谷部 貴（総合政策課）
- ▽三瓶 金市（環境整備課任期付職員）

●新規採用職員（4月1日付）

次の方々を新たに迎え、平成29年度がスタートします。

- ▽朝日診療所 医師
根元 加恵
- ▽教育委員会 主幹兼指導主事
伊藤 知雄
- ▽総合政策課（新卒採用）
斉藤 咲子
- ▽保健福祉課任期付職員
渡部 一昭



町長スケジュール

（3月分）

- | | |
|--|--|
| 1日 県立只見高等学校卒業証書授与式 | 21日 只見・金山・昭和県道改修促進期成同盟会県要望（南会津町～県庁） |
| 2日 東武鉄道新型特急リパティ・カウントダウンボード除幕式（南会津町）、一般質問検討庁議 | 22日 三条市、新潟県庁等表敬訪問（新潟県内） |
| 3日 雪まつりフォトコンテスト・ミニ雪像コンテスト審査会 | 23日 只見小学校・卒業証書授与式、福島民報社記念植樹・目録贈呈式 |
| 4日 TADAMIスノースポーツフェスティバル前夜祭 | 24日 只見高校送別会、横石知二氏との懇談会 |
| 5日 朝日いいもの集めちゃった市、東武鉄道新型特急リパティ内覧会等（南会津町） | 25日 横石知二氏講演会 |
| 6日 雪まつり実行委員会、湯ら里取締役会 | 26日 只見婦人会定期総会 |
| 7日 只見町議会3月会議（～16日） | 27日 JR只見線復興推進会議（福島市） |
| 9日 産経新聞取材 | 28日 山内医師離任式、神奈川大学佐野教授来庁 |
| 11日 明和公民館まつり、歳時記の郷・奥会津シンポジウム | 29日 南会津建設事務所長来庁、広域消防署只見出張所長来庁、観光まちづくり協会理事との打合せ |
| 13日 只見中学校卒業証書授与式 | 30日 南会津会評議員会・理事会、南会津広域圏組合管理者会（南会津町） |
| 15日 福島民報取材 | 31日 町退職職員辞令交付・離任式、JR只見線復興推進会議要望活動（東京） |
| 16日 福島県宅地建物取引業協会調印式 | |
| 17日 雪まつりミニ雪像コンテスト表彰式 | |
| 18日 家庭医療学専門医コース修了祝賀会（郡山市） | |
| 19日 清水国明氏講演会・懇談会 | |

町民の消息

(2月26日～3月25日届出分)敬称略

■お誕生おめでとうございます

坂下 琥珀 (男/拓穂・奈津美) 只見
 佐藤 望音 (女/亮人・愛菜) 館ノ川
 酒井 蒼太 (男/寛太・美幸) 福井

■ご結婚おめでとうございます

坂田 馬場 匠♡渡部 成美 南会津町

■おくやみ申し上げます

小沼直義	81歳	只見
山内民男	99歳	二軒在家
目黒幸栄	82歳	大倉
三瓶ヤス子	96歳	福井
山内セツ	97歳	梁取
高橋文一	70歳	石伏
五十嵐仁一	67歳	福井
小沼亀一	79歳	小井
飯塚和子	84歳	長浜

※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

平成29年3月1日現在

人口 4,362 (－8)
 男 2,138 (－5)
 女 2,224 (－3)
 世帯数 1,802 (－2)
 高齢化率 45.04%

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 3 転出 6 出生 2 死亡 7

あとがき

▽3月は、卒業のシーズン。保育所の満了式や学校の卒業式を取材させて頂きました。自分が卒業してから十数年ぶりに拝見した卒業式でしたが、卒業の言葉や歌はいつの時代も感動するものです。特に、「両親のもとへ歩み寄り、「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えながら卒業証書を手渡す姿に本当に感動してしまいました。両親への感謝の気持ちと、子どもたちの成長が伝わる素晴らしい卒業式・満了式でした。

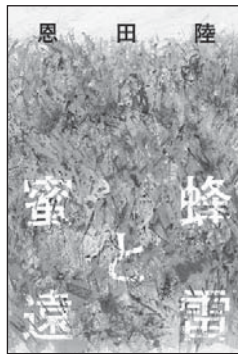
(三瓶)

生涯学習推進員
湯田千穂

明和振興センター
図書室 ☎86-2111

おすすめ新着図書

★蜜蜂と遠雷

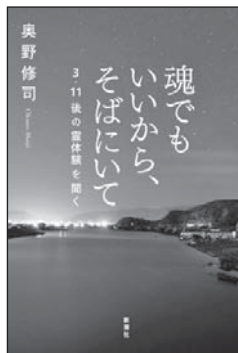


恩田陸/著(幻冬舎)

音楽小説ですが、音楽のことがまったくわからない人でも、楽しむことができます。

文章で音楽的知識、曲の解説まであり曲のイメージや、登場人物の成長もわかりやすく引き込まれます。長編で読み応えのある本です。

★魂でもいいから、そばにいて 3.11後の霊体験を聞く



奥野修司/著(新潮社)

東日本大震災の2年後から震災にあった所に何度も通って収集した霊体験談集です。とても大きな災害だっただけにいろんな話があるようで、亡くなった家族から電話が掛かってきたり、亡くなった子供が好きだったおもちゃが突然動き出したりと…。

「幽霊」と聞くと怖い、恐ろしいという気持ちを持つ人がたくさんいると思いますが、この本に書かれている内容を読むと温かい気持ちになれます。この不思議な体験によって大切な人を亡くした人は生きる力を貰っているのだと思える本です。

★その他、別棟、図書室(旧支所)にもたくさん本を置いております、利用時間は午前9時から午後4時までです。(土日祝日は閉館)ぜひご利用下さい。リクエストも随時受付しています。

町民章

- 1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
- 1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
- 1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
- 1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
- 1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう

スミレサイシン (学名: *Viola vaginata*)

[スミレ科 スミレ属]



▲花が咲いても葉がほとんど開いていません

スミレと聞いて、みなさんは何を思い浮かべますか?色や人の名前、香水、カクテルなど人によって様々でしょう。スミレの間は図鑑が1冊できるほど多くの種があります。今回はそれの中から、只見町に自生するスミレサイシンを紹介します。

スミレサイシンの花期は4月下旬から5月にかけてで、スミレの中では比較的大きな花を咲かせます。また、葉が開くのが遅く、花の時期に葉が開ききっていないものや、葉が現れていないものもあります。

しかし、花が終わってから葉は大型になるため、その変わり様に驚かされます。先をつまんだようにとがるハート形の葉も特徴の一つです。落葉樹林やスギ林の林床を好み、只見町では神社参道や林道沿いにもよくみられます。

日本海側に分布が偏った植物を「日本海要素植物」といいます。本種もそれに含まれ、主に日本海側の多雪地帯の低山地に分布します。太平洋側の雪の少ない地域には、近い仲間のナガバノスミレサイシンが分布し、名前の通り葉は長く、スミレサイシンより小型ですらった印象です。



スミレサイシンの花の色はバリエーションが豊富で、紫や薄紫、白まで様々です。少しかがんで、いくつかの花の色を見つけてみませんか。

▲神社参道で朝日に照らされるスミレサイシン

企画展示

「多雪地帯に生きる 日本海要素植物」

期 間: 4月9日(日)~7月17日(月)

場 所: ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー

春の観察会

「春植物の花園を歩く」

日 時: 5月3日(水・祝) 12時30分~15:00

観察地: 黒谷川沿い ※開花状況によって観察地を変更します。

集 合: ただみ・ブナと川のミュージアム 12:00集合

参加費: 500円(保険料込)

春の観察会

「春のブナ林を歩く」

日 時: 5月4日(木・祝) 10:00~14:00

観察地: 癒しの森

集 合: 癒しの森駐車場(県道352号、松坂峠)

参加費: 500円(保険料込)

※観察会参加には事前の申し込みが必要です。

・締め切り 5月1日(月)

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください